

## IX 史料編集事業

### 1. 事業概要

#### (1) 史料編集班の沿革

復帰前の昭和42年(1967)琉球政府立沖縄史料編集所が創設され、復帰とともに沖縄県沖縄史料編集所と改称。昭和61年(1986)行政改革により県立図書館に併合され、沖縄県立図書館史料編集室と改組、平成7年(1995)沖縄県公文書館の設置に伴い移転、翌8年、史料編集業務が教育庁文化課所管の委託業務となり財団法人沖縄県文化振興会公文書館管理部(後に公文書管理部)史料編集室となる。平成19年(2007)指定管理者制度導入に伴い財団法人沖縄県文化振興会史料編集室と改名、平成23年(2011)組織改編により教育庁直轄となり、沖縄県教育庁文化財課史料編集班となる。

#### (2) 歴代宝案の編集・刊行

『歴代宝案』は、中・近世のおよそ500年にわたる外交文書集で、歴大かつ難解な漢文史料であるが、沖縄の対外通交貿易史および外交交渉史を解明するうえで第一級の史料であり、東アジア世界の動向をも知りうる貴重な史料である。歴代宝案編集事業の目的は、本文を校訂し、訳注本を作成して、これを利用しやすい形に編集することによって、今後の歴史研究の進展に役立て、あわせて一般への普及を図り、国際化時代における県勢発展の基礎資料として活用できるようにすることにある。

沖縄県教育委員会では、平成元年度(1989)から『歴代宝案』の編集事業に着手し、平成3年度(1992)から刊行を開始した。校訂本は諸本を校合し異同を注記した本を15冊、訳注本は校訂本の漢文を全文読み下し文に改め、語注やルビを付し、『歴代宝案』の理解を補完するもので同じく15冊、計30冊の刊行を予定している。これまでに校訂本14冊、訳注本9冊の合計23冊、歴代宝案編集参考資料15冊を刊行した。平成24年度から沖縄振興特別推進交付金による「琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業」として採択され、歴代宝案の編集刊行が大きく推進されることとなった。

#### (3) 沖縄県教育委員会と中国第一歴史档案馆との「協議書」に基づく交流事業

歴代宝案の編集作業においては、国内外の関連史料も参照することが必要不可欠である。中国に残る膨大な琉球関係資料を活用するため、平成3年(1991)3月、「清代の档案マイクロフィルムの相互交換に関する覚書」の調印が行われた。その後「覚書」を「協議書」と改め、平成27年には6度目の調印が交わされた。これまで10回にわたってマイクロフィルムの提供があり、総計は3,834件、1万2,848コマにのぼる。また、沖縄と北京で交互にシンポジウムを開催し、これまでに11回開催され、『琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集』10冊を刊行した。毎年、档案馆から参考人として研究者2名を招聘し、延べ48人が報告を行った。平成17年度(2005)から『中琉歴史関係档案』の出版委託を行い、33冊を刊行した。

#### (4) 新沖縄県史の編集・刊行

新沖縄県史編集事業は平成5年度(1993)にスタートした。先に刊行した「沖縄県史」は明治の琉球処分から沖縄戦までを取り扱った近代史であったが、「新沖縄県史」は、先史から現代までの全時代と自然環境等を対象とした体系的な歴史書を編纂し、沖縄の歴史認識、文化意識の一層の活性化を促すことを目的とする。

平成6年(1994)「新沖縄県史編集検討委員会」のもとで「新沖縄県史編集基本計画」がまとめられたが、その後平成9年(1997)「新沖縄県史編集委員会」が設置されて基本計画の見直しがなされ、平成10年(1998)「新沖縄県史編集基本計画」が策定された。平成22年(2010)、再び基本計画の見直しが諮問され、平成24年(2012)には新たな「基本計画」が策定された。

これまでに、「沖縄県史各論編」6冊、「沖縄県史資料編」25冊、「沖縄県史図説編」1冊、「県史ビジュアル版」13冊刊行した。その他「沖縄県史研究叢書」、「概説 沖縄の歴史と文化」、「沖縄県史だより」や各種目録、紀要などを刊行するとともに、各種の資料収集調査を実施している。

## 2. 主な活動

### (1) 委員会の開催及び編集・刊行活動

新沖縄県史編集委員会（1回）・専門部会（刊行計画検討専門部会1回、自然環境1回、沖縄戦5回、女性史3回、図説編前近代4回、民俗2回、現代1回）、歴代宝案編集委員会及び作業部会（3回）など計21回の委員会及び専門部会を開催した。

また『沖縄県史 各論編8 女性史』『歴代宝案 訳注本 第9冊』『歴代宝案編集参考資料15 歴代宝案 訳注本 第9冊 語注一覧表』『中琉歴史関係档案 道光朝(三)』『中琉歴史関係档案 道光朝(四)』『中琉歴史関係档案 道光朝(五)』『沖縄史料編集紀要』第39号、『沖縄県史だより』25号などを編集・刊行した。

### (2) 史料調査収集・交流事業（史料編集事業）

#### ①資料調査・収集（新県史）

目的：沖縄県史（前近代・近代）資料調査・収集

場所：国立国会図書館東京本館・國學院大學折口古代研究所

調査期間：平成28年2月22日（月）～25日（木）

調査員：小野まさ子（指導主事）

概要：琉球処分期の民衆の琉球観史料調査。折口古代研究所所蔵近代沖縄新聞調査。

成果：「团团珍聞」の琉球関係記事の複写・新聞の所在とデジタル化計画有無の確認。

#### ②写真撮影（新県史）

目的：『県史各論編 沖縄戦』にかかる資料収集・写真撮影

場所：石垣島

期間：平成28年3月17日（木）～3月18日（金）

調査員：吉田敬（指導主事）・吉川朋（嘱託員）

概要：石垣島・竹富島の戦争遺跡などを撮影。

成果：石垣島・竹富島の戦争関連遺跡など写真資料419枚を収集。

#### ③交流事業（歴代宝案）

##### 1) 中国第一歴史档案馆より参考人招聘

目的：歴代宝案の編集作業に資するため、歴代宝案編集委員会において、中国第一歴史档案馆の研究者・専門家の意見を聴取する。

期間：平成27年11月11日（水）～15日（日）

概要：盧経（中国第一歴史档案馆 利用処副処長・調研員）、劉 杜英（中国第一歴史档案馆 人事処主任科員）を招聘し、編集委員会での参考意見報告のほか、沖縄県立博物館・美術館、首里城等を視察。

##### 2) 第11回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム

日時：平成27年11月14日（土） 9時30分～17時

場所：沖縄県公文書館 講堂

発表者：伍媛媛「明清期中琉交流の特設機関について－福州柔遠駅」

呉元豊「清初における琉球国王舅馬宗毅の清朝派遣とその意義」

真栄平房昭「和漢の境界を越えて－琉球における書物文化の受容－」

張小銳「内務府『奏摺档』にみる琉球関係档案」

王金龍「道光・咸豊期における英仏人の琉球逗留と交渉問題について」

豊見山和行「琉球国における清国・日本医療の受容と展開

－『牛痘一卷』の分析を中心に－」

##### 3) 沖縄県教育委員会と中国第一歴史档案馆との学術交流に関する「協議書」改訂調印

期間：平成27年12月16日（水）

場 所：中国第一歴史档案館（北京）

#### 4) 琉球関係資料集の出版委託

中国第一歴史档案館が所蔵する琉球関係史料を年代順に整理し、内容提要を付して出版する。  
2006年（平成18）からスタートした事業で、これまでに33冊を出版した。

### (3) 琉球王国の交流史に関する史料調査収集事業（沖縄振興特別推進交付金事業）

#### ①国内史料調査

##### 1) 琉球王国交流史に関する史料調査①

調査目的：琉球王国交流史に関する史料調査

調査期間：平成27年4月30日（木）～5月4日（月）

調査場所：法政大学沖縄文化研究所・国立国会図書館・東京都立中央図書館

調査員：漢那敬子（主任専門員）・野村直美（指導主事）

概要：法政大学沖縄文化研究所にて「琉球歴代宝案」20冊、都立中央図書館にて特別買上文庫の琉球関係および漢籍資料の調査・撮影。

##### 2) 琉球王国交流史に関する史料調査②

調査目的：琉球王国交流史に関する史料調査

調査期間：平成28年2月22日（月）～25日（木）

調査場所：国立国会図書館東京本館

調査員：小野まさ子（指導主事）・高山厚子（嘱託員）

概要：ベッテルハイムに関する論文資料調査

##### 3) 琉球王国交流史に関する史料調査③

調査目的：琉球王国交流史に関する史料調査

調査期間：平成28年3月14日（月）～17日（木）

調査場所：米沢図書館・上杉博物館

調査員：漢那敬子（主任専門員）・早瀬千明（嘱託員）

概要：米沢図書館における「擬表」調査、上杉家古写真調査。

#### ②国外調査

##### 1) 琉球王国の交流史に関する国外史料調査（台湾）

調査目的：『歴代宝案』訳注本および琉球王国交流史に関する史料調査

調査期間：平成27年8月9日（日）～14日（金）

調査場所：国立故宮博物院図書文献館・台湾大学図書館

調査員：野村直美（指導主事）・漢那敬子（主任専門員）・赤嶺守・麻生伸一・前田舟子・山田浩世（調査員）

概要：国立故宮博物院図書文献館において、前年に引き続き同館の貴重資料デジタルデータ検索システム「清代宮中档奏摺及軍機處档摺全文影像資料庫」「大清国史人物列伝及び国史館档伝包伝稿資料庫」を利用し、琉球関係档案および歴代宝案訳注本に関わる総督・巡撫等の役職についての人物関係資料を複写。台湾大学図書館にて歴代宝案台湾本の確認および琉球関係拓本資料の調査

### (4) 歴史資料のデジタル化（沖縄振興特別推進交付金事業）

①琉球関係档案史料のデジタル化・テキスト化（清代琉球関係档案六編 1034頁）

②歴代宝案訳注本第1・2・3冊のデジタル化（734頁・634頁・526頁 計 1894頁）

③歴代宝案校訂本第1・2冊のデジタル化（787頁・725頁 計 1512頁）

### (5) 諸外国との交流に関する歴史史料の編集・刊行（ベッテルハイム日記翻訳）

『沖縄県史 資料編22 The Journal and Official Correspondence of Bernard Jean Bettelheim 1845-54 Part II (1852-54)』の翻訳（全624頁中、260頁分の翻訳）